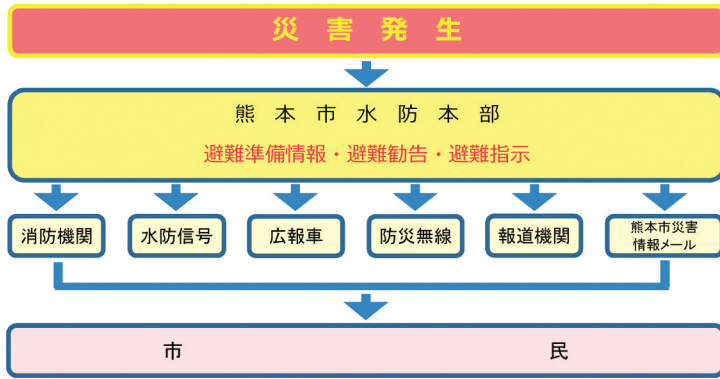


情報の伝達経路



非常持ち出し品について



あれもこれもと思いがちですが、荷物は最小限にまとめてリュックサックに入れ、一度背負ってみましょう。

- 大人で4～5kg程度が目安です。
- なるべく両手が使える状態にして、避難するときに敏速な行動が出来るようにしましょう。
- 非常袋は、身近で目につきやすい場所に置くのが一番です。
- 荷物を2つ位に分け、数箇所に分散しておくことも効果的です。

避難の心得

●安全の確保

子どもやお年寄り、体の不自由な人がいる場合は、早期の避難を心掛けます。



●相互協力

避難する時は出来るだけ複数で行動しましょう。また、救助隊の指示に従い、すみやかに避難しましょう。



●動きやすい服装で

はきものは運動靴など、紐で締められるものにします。(長グツ・サンダルなどは危険です)



●歩いて避難できる深さ

歩ける水深はひざくらいまでが目安です。逃げ遅れた場合は、無理せず高いところで救助を待ちましょう。



●冠水した場所を歩くときは

長い棒で水面下を確認しながら歩く、ロープにつながつて避難するなどの安全対策をとりましょう。



●危険の回避

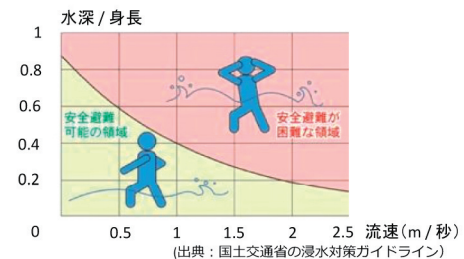
土砂災害の恐れがあるがけ地の近く、増水している川の橋は通行しないようにしましょう。



浸水深と流速について

ハザードマップは予想される最大浸水深を示していますが、実際の氾濫は水の流速に大きく左右されます。水深が浅くても流速が早い場合は歩行することは危険です。

予想浸水深が浅いことは、必ずしも安全に避難できることを示していません。下図を確認し、流速の把握も必要です。



歩行困難度の判定表

項目	浸水深1.0m以上	浸水深0.5～1.0m	浸水深0.5m未満
流速1.5m/s以上	不可能	不可能	困難
流速0.5～1.5m/s	不可能	困難	可能
流速0.5m/s未満	困難	可能	可能

※ 流速0.5m/sとは、漂流物が1秒間に50cm流れる速さ。

※ 流速1.5m/sとは、漂流物が1秒間に1m50cm流れる速さ。

災害情報・緊急連絡

■ 防災情報提供サイト ■

情報提供機関	内容	アドレス
熊本地方気象台	熊本地方の気象データや警報・注意報など	http://www.jma-net.go.jp/kumamoto/
国土交通省	川の防災情報	http://www.river.go.jp/
国土交通省	河川情報(ライブカメラ)	http://www.qsr.mlit.go.jp/kumamoto/
熊本県	防災情報	http://cyber.pref.kumamoto.jp/bousai/
熊本市	防災トップ	http://www.city.kumamoto.jp/bousai/

家族と連絡が取れないときは！

■ NTT災害用伝言ダイヤル「171」について ■

「171」をダイヤル→利用ガイダンスに従って、伝言の録音・再生を行ってください。

利用できる電話

- 一般電話 (プッシュ回線、ダイヤル回線とも)
 - 公衆電話
 - 災害時、NTTが避難場所などに設置する特設公衆電話
 - 携帯電話・PHS (一部の事業者を除く)
- ※ 電話番号は必ず市外局番からダイヤルしてください。

提供開始

- 震度6弱の地震発生時
- 災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合

登録できる電話番号

- 災害被災地 (エリアの設定は、都道府県を単位として行います。)
- ※ 提供の開始、登録できる電話番号など運用方法・提供条件については、状況に応じてNTTが設定し、テレビ・ラジオ・インターネット等を通じてお知らせします。

伝言録音時間・保存期間・蓄積数

- 伝言録音時間：1伝言あたり30秒以内
 - 伝言保存期間：録音してから2日 (48時間)
 - 伝言蓄積数：1電話番号あたり1～10伝言 (地域により異なります)
- ※ 被災地からの伝言の録音を優先します